

ふるさとの仲間たち

箱根生きもの図鑑 (26) アサギマダラ

アサギマダラは、マダラチョウ科の中で最も北に分布しています。ふわり、ふわりと飛ぶ優美な姿は、夏の避暑地に欠かせない存在です。

芦ノ湖周辺では6月上旬頃から見られますが、数はわずかです。その後産卵し、ふ化した幼虫はオオカモメヅルを食べて成長し、成虫となつて数が増えます。また、低地にいた個体も山地に移動してくるため、夏の高原では、群れ飛ぶ光景を目にするようになります。

アサギマダラの羽根は、胴体の割に大きく、蝶や蛾に特有の鱗粉(りんぷん)がありません。このため、風に乗って省エネ飛行することも可能で、羽根を広げたまま数十秒も空中を漂っていることもあり、長距離移動に適しています。

移動は、春は北へ、秋は南へ行われます。中には、種子島から福島県白河市へ1200km移動した個体や、静岡市から鹿児島県喜界島へ1100kmも移動した個体もいるそうです。箱根の大涌谷からも、愛知県や三重県へ移動したことが確かめられています。

これらは、

羽根にデータを記入して放し、再捕獲されることで確認されたもので、現在も多くのアマチュア研究家の協力により、長距離移動の謎の解明が進められています。



蛹



幼虫



アサギマダラ成虫

とっておきの1枚 拝見!



湯本茶屋 吉川秋男さんより

17年前に、自然とふれあいながら楽しみ学ぶ会「箱根旧街道と寄木の里」が畑宿で開かれました。当時、箱根雲助双子会の会長をしていた私は、会員の4人と彫物模様の肌着と赤ふんどしの雲助姿に扮装し、観光客に江戸時代の山籠旅気分を味わってもらいました。若いときのコマです。

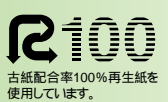
皆さんの思い出や記念の写真を募集しています。詳しいことは企画課へお問い合わせください。

わが家のちびっ子



伊藤 順稀 くん (1歳4か月)
 なおき
 和生・理香さんの長男(湯本)
 ♥お母さんからひとこと
 「一緒にいるんなことを経験して、ゆっくり大きくなるうね。いつも元気で笑顔がありがとね。」

町の人口と世帯	
人口	15,043 (-33)
- 7月1日現在 -	男 7,124 女 7,919
()内は前月比	世帯 7,270 (-14)



ごみ減量標語 一つずつ へらしてゆこう ごみとむだ